

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【田川市立後藤寺小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年 42名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 (スペシャル運動会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○トップアスリートの競技映像を視聴することを通して、走や跳のこつを視覚的に理解することができる。 ○最後に『スペシャル運動会』を実施することで、目標達成に向け、主体的に練習に取り組んだり、小学校の思い出づくりをしたりすることができる。
5 取組内容	【事前】 トップアスリートの記録と比較するため、事前に100m走の記録を計測しておく。 【実践】 ・陸上競技への興味・関心を高めるため、オリンピック陸上競技の映像を視聴することで、記録を伸ばそうとする意欲付けを行う。 ・ペアや少人数でアドバイスしたり記録を測ったりすることで主体的に練習に取り組めるようにする。(100m走、80mハードル、幅跳び、高跳び) ・学習のまとめとして、記録会を実施する。 【事後】 ・保護者を招待して「スペシャル運動会」を実施し、練習の成果の披露と思い出づくりの場とする。

<p>6 主な成果</p>	<p>○ストップウォッチを多数準備することで、少人数での教え合いが活発化するとともに、運動量を増やすことができた。</p> <p>○従来のハードルだけでなく、バーが自在に動く「ソフトドリルハードル」を準備したことで、ハードルが苦手な児童の恐怖心を軽減することができた。</p> <p>○各種目の個人記録を取って終わるのではなく、「スペシャル運動会」で披露するという目的意識を持たせることができたため、練習の意欲が増した。（※今年度は例年行われていた田川市陸上記録会も中止となったため、意欲付けが難しかった。）</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○アスリートの記録の偉大さを実感させ、少しでもその記録に近づけようとする意欲をもたせるため、短距離走の映像を見ながら、ストップウォッチで実際に計測させた。</p> <p>○「陸上競技のこつ(仮称)」「記録を伸ばすためのポイント(仮称)」(図解資料)を、実際の映像でも確認させることで、練習のポイントをイメージしやすくできるようにした。</p> <p>○映像で確認したことをもとに、自分のめあてを持たせること、振り返りをていねいに行うことを徹底した。</p> <p>○少人数で声を掛け合いながら練習できるよう、必要な道具類を十分準備するとともに、場を自由に選択できるようにした。</p> <p>○練習の成果を保護者に披露するため、「スペシャル運動会」の種目の一つに100m走を取り入れた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○児童が少人数で声を掛け合って練習できるようにするために、十分な道具の準備と、より多くの指導者の立ち会い(確保)が必要である。</p> <p>○コロナ禍で様々な大会や披露の場が中止(縮小)になる中、意欲付けのための手立てや工夫が必要である。</p> <p>○計画的に道具類(ストップウォッチ、ハードル、高跳びの支柱)を増やし、練習の質及び量の充実を図ること。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○来年度以降は、校内及び市内陸上記録会の練習(今年度は、コロナのため中止)の練習の中で活用していきたい。</p>



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 田川市立後藤寺小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年 44名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゴール型のゲームを行うことができる。 ○ 規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりすることができる。
5 取組内容	【事前】 ○ ブラインドサッカーについて知り、ゲームを体験する。  【実践】 ○ ラインサッカーを基にした易しいゲームを楽しむ。 ○ タグラグビーを基にした易しいゲームを楽しむ。 
6 主な成果	○ 福祉体験やブラインドサッカー体験を通して、障がいのある方たちへの声かけも、ボール運動におけるパスも、自分の思いだけ（一方通行）では相手に伝わらず、お互い（双方向）のやりとりや意思疎通が大事だということを理解することができた。

	<p>○ブラインドサッカー体験をとおして、工夫をすれば、健常者も、障がいのある方も一緒に楽しめるスポーツがあるということを知ることができた。</p> <p>○タグラグビー、ラインサッカー、タグラグビーなどの多様なゲームを楽しくことをとおして、ゴール型ゲームについての興味関心を高めることができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○4年生は、総合的な学習の時間「福祉体験」でアイマスク体験や車椅子体験、バリアフリーマップづくりに取り組んだ。その学習との関連で、ブラインドサッカー体験に取り組んだのち、体育科の学習としてゴール型ゲーム(ラインサッカーを基にしたゲーム、タグラグビーを基にしたゲーム)に取り組むようにした。</p>
8主な課題等	<p>○総合的な学習の福祉体験と関連を図るためには、あらかじめカリキュラム(実施時期及びゲームの内容)の検討が必要。</p> <p>○多様なボール型ゲームの楽しさを味わわせるためには、道具類(タグラグビーボール、ゲーム用タグ、ミニゴール等)を計画的に購入しておく必要がある。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○毎年、総合的な学習の時間との関連を図りながら、ゴール型ゲームに取り組んでいきたい。</p>